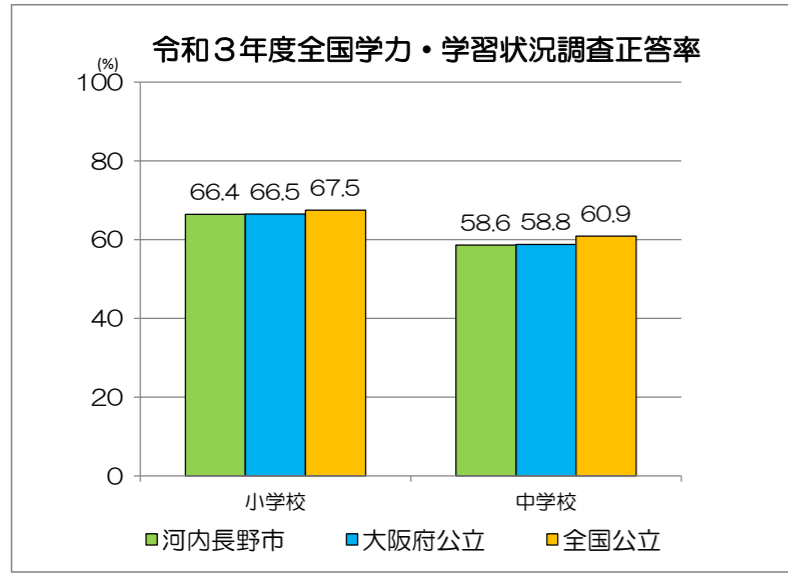


# 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果考察【概要版】



小学校正答率	河内長野	対府差	対国差	府公立	全国公立
国語	62.8	-0.4	-1.9	63.2	64.7
算数	70.0	0.3	-0.2	69.7	70.2
平均正答率	66.4	-0.1	-1.1	66.5	67.5

中学校正答率	河内長野	対府差	対国差	府公立	全国公立
国語	61.7	-0.3	-2.9	62.0	64.6
数学	55.5	0	-1.7	55.5	57.2
平均正答率	58.6	-0.2	-2.3	58.8	60.9

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査から確認できた成果と課題

### 成果について

- ☆授業における成果
  - ◎主体的・対話的な学びのある授業への改善が進んでいる。
  - ◎1人1台端末等のICT機器の活用が進んでいる。
- ☆よくできていた問題
  - ◎小学校 国語：文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること  
算数：データを二次元の表に分類整理すること
  - ◎中学校 国語：事象や行為などを表す多様な語句について理解すること

### 課題について

- ★全体について
  - 複数の資料を関連付けて、自分の考えを書くこと
  - 各教科の見方・考え方にもとづいて、書いて説明すること
- ★各教科について
  - 小学校 国語：文の中における主語と述語の関係や修飾と被修飾との関係を捉えること  
算数：記述問題の中でも「理由」を記述する問題
  - 中学校 国語：文章を読んで、適切な表現を付け加えたり引用したりした上で、その理由を具体的に記述する力  
数学：数学的に説明することや数学的な表現を用いて説明すること

## 課題解決に向けた今後の市としての取組み

### ☆自分の考えをまとめ、表現する場面の設定

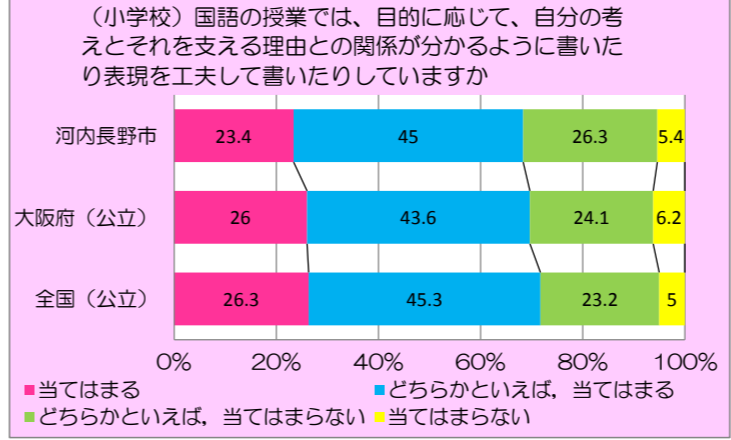
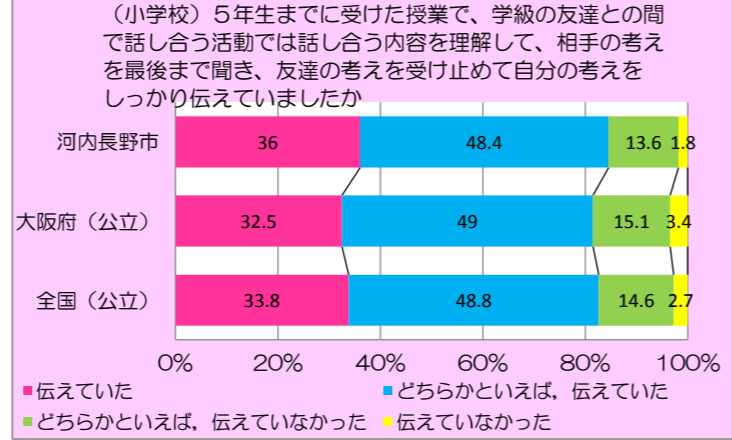
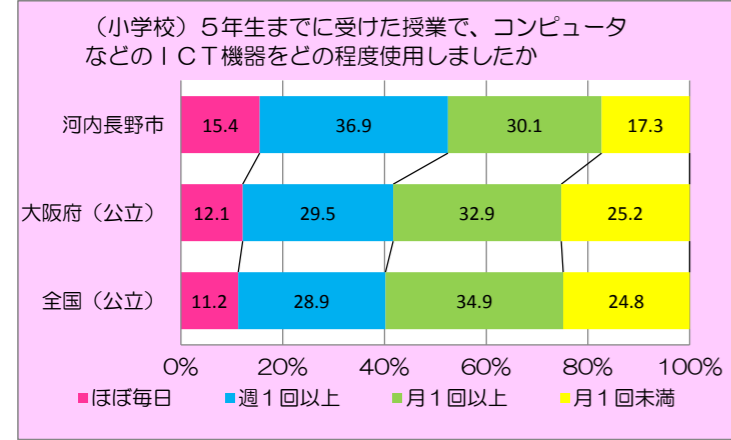
⇒思考力の育成  
⇒考えるための技法の活用

「考えるための技法」とは…  
「考える」ということには、「比較する」「分類する」「関連付ける」などいくつかのパターンがあり、そうしたパターンを「考えるための技法」という。学習指導要領に示されている「深い学び」の実現のためには、知識を関連付けたり、構造化したりする力が必要であることから、その力の育成のために、授業において「考えるための技法」の活用を推進する。

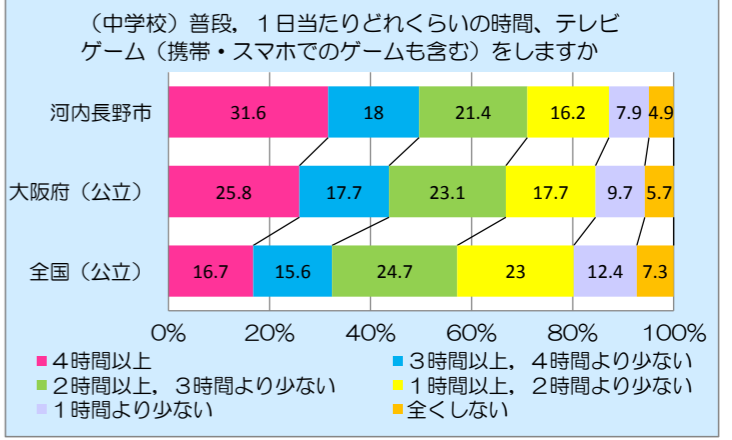
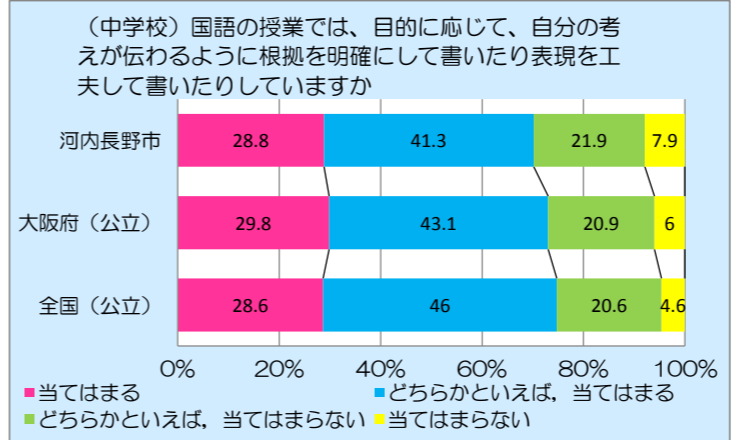
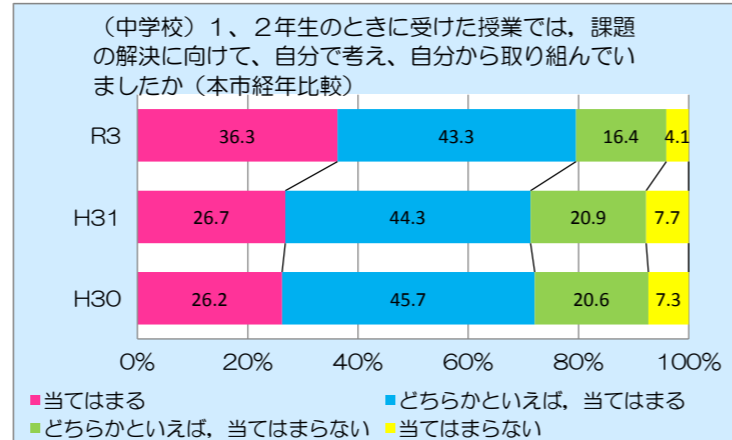
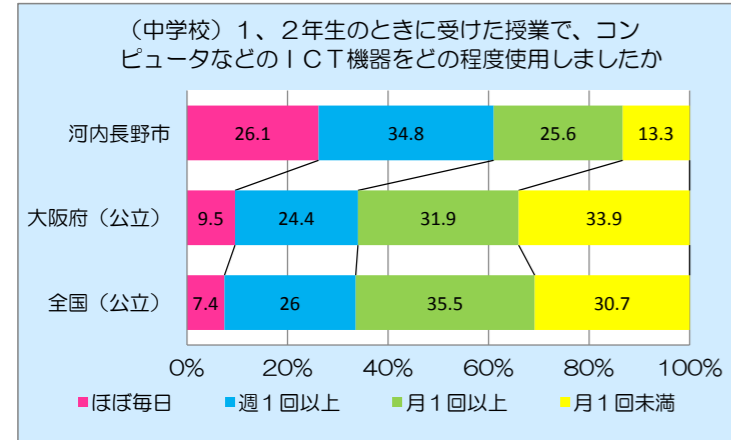
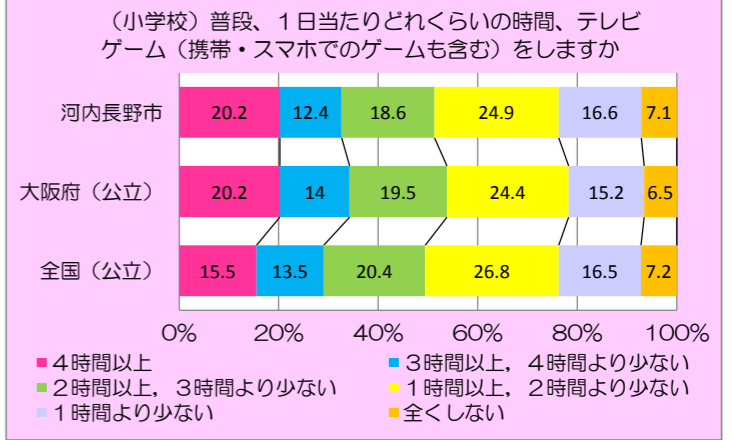
### ☆主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ① 意欲・主体性を持たせる課題設定
- ② 自分の意見を正確に伝える場面の設定・指導の充実
- ③ 自分の考えをまとめる学習の振り返り

## ＜学校での授業についての児童・生徒質問事項＞



## ＜基本的生活習慣に関する児童・生徒質問事項＞



小学校・中学校ともに、授業において、1人1台端末などのICT機器を積極的に活用した授業が進められていることがうかがえる。今後も、一人ひとりの考えやグループで考えたことをリアルタイムで共有でき、多様な意見にも即時にふれられること等、学習者用端末のメリットを活かした授業改善も進めていく。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する質問では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進められた成果がうかがえる。特に中学校では、主体的に課題解決に取り組む生徒の割合が増加している。

国語の授業中、自分の考えがうまく伝わるよう、理由や根拠を明確にして書いたかを問う項目では、小学校・中学校ともに全国や大阪府を下回る結果となった。授業の中で、自分の考えを表現させる場面をこれまで以上に設ける必要がある。

1日に4時間以上テレビゲーム等に時間を費やす児童生徒の割合は、小学校において20%を超え全国に比べて高く、また、平成29年度の結果と比べると、その割合は倍増している。また、中学校では30%を超え、全国や大阪府に比べて高く、中学生の約半数が、1日に3時間以上テレビゲーム等に時間を費やしている。